

事前のお知らせ

Yori
Dori
Midori
よりのりみどろねりま

JA 東京あおばが農業祭を開催 シーズン到来！売り切れ御免の練馬大根！

と き JA 東京あおば農業祭：11月21・22日（土・日）10時～16時
（練馬大根特別販売は10時から）
練馬大根一斉販売：11月26日（木）～

と ころ JA 東京あおば農業祭：光が丘公園けやき広場（光が丘4-1-1）
練馬大根一斉販売：JA 東京あおば共同直売所（5店舗）

21日と22日、JA 東京あおば（榎本高一代表理事組合長）は、第18回 JA 東京あおば農業祭を都立光が丘公園で開催する。

農業祭は、JA 東京あおば管内で生産される農園芸畜産物の品質改善、栽培技術の向上、生産意欲の向上を図り、収穫に感謝し、その喜びを地域住民と分かち合うことで、地域に貢献する農業の発信を目的に開催するもの。

毎年恒例となった、ブランド野菜「練馬大根」の特別販売を始め、地場産の野菜や花、果樹、漬物など、練馬区ならではの逸品を販売するほか、野菜を積み込んだ宝船の展示やステージショー、農園芸畜産物品評会など、見て楽しめるイベントも実施する（練馬区後援）。



農業祭における宝船の様子

練馬大根の特別販売（21日、22日）

練馬区を代表するブランド農産物であり江戸東京野菜でもある「練馬大根」。全国的にも有名だが、生産量が少ないため市場に出回ることがほとんどなく、入手できるのもこの時期だけとなっている。区は、貴重な練馬大根を農業祭で“特別”販売する（数量限定1本200円。葉つき、泥つき。販売予定本数1,800本。両日とも売り切れ次第終了）。毎年幻の大根を求める人で行列ができる。

また当日は、練馬大根の干し風景の再現展示を行う。「沢庵漬け」が有名な練馬大根は、収穫した後「たち編み」と呼ばれる練馬特有の干し方で天日干しにされる。かつて区内の各所で見られた練馬大根が連なる風景を来場者に楽しんでもらう。

「練馬区農の学校」初級コースを修了した「ねりま農サポーター」4人も特別販売の運営を手伝う予定。

練馬大根の一斉販売（26日～）

11月26日（木）からは、JA 東京あおばの5つの共同直売所で練馬大根の一斉販売を実施する（葉つき、泥つきで1本200円。販売予定本数1,100本。売り切れ次第終了）。

毎年、新鮮な練馬大根を食卓の一品として味わうことを楽しみに購入する方で直売所が賑わう。



【練馬大根特別販売（昨年の様子）】



【干し風景の再現展示】
（平成23年実施の様子）

【練馬大根販売場所】

- ・ JA 東京あおば農業祭

販売日時	販売箇所
11月21日(土)・22日(日) 10時から	光が丘公園けやき広場

- ・ JA 東京あおば共同直売所 (5か所)

販売開始日時	販売場所・問合せ
11月26日(木) 9時から	練馬地区振興センター(春日町1-17-34) 電話 3999-7851
	とれたて村石神井(石神井町5-11-7) 電話 3995-3132
11月26日(木) 10時から	総合園芸センターふれあいの里(桜台3-35-18) 電話 3991-8711
	こぐれ村(大泉学園町2-12-17) 電話 3925-3113
	ファーマーズショップにりん草(板橋区高島平3-12-20) 電話 3975 2189

【全国的に名を馳せた“幻”の大根】

大根の練馬か、練馬の大根かと言われるほど全国にその名を轟かせた練馬大根だが、現在市場には出回っていない。およそ300年前の元禄の時代から栽培されるようになり、その後、主に漬物用として広まっていたが、干ばつやモザイク病の発生、食生活の変化などにより、昭和30年ごろから栽培が減り、“幻”の大根となってしまった。区では、区民からの練馬大根復活の要望を受け、1989(平成元)年から保存・育成事業に取り組んでいる。

【練馬大根育成事業】

区が取り組む練馬大根育成事業は、JA 東京あおばや区内農業者と協力し、現在も練馬大根の増産に努めている。平成27年度には、20戸の農家の協力のもと約14,000本の練馬大根を生産し、生大根や沢庵漬けの販売、収穫体験イベントなどを実施している。また、約4,500本を区立全小中学校の給食食材として使用し、地産池消の促進と食育への活用を図っていく。

【問合せ】

練馬大根全般について 練馬区都市農業課農業振興係 電話03-5984-1403
農業祭について JA 東京あおば地域振興部 電話03-5910-3066